プーチン大統領への手紙（抜粋）

私は日本の政治学者で国境問題や国境地域の研究に取り組んでいます。何よりもアジアやユーラシアで様々な国境問題を解決し、隣国と実効的な関係をつくってきたロシアに敬意を表します。

私たちの国の間にはいまだ国境問題が存在します。しかし、私はこの問題に関して少し独自の考えをもっていますそ。それはもちろん国境と言うものが中央政府間の交渉で決められるものではあるものの、これを決めるにあたって国境地域に暮らす人々の生活に関わる利益を無視してはならないということです。交渉はモスクワと東京と言った中央政府の利益だけで交渉を進められるきらいがありますが、国境問題は現地の利益と現実に即して解決されることも重要だと私は思っています。

大統領に思い出していただくとともに提案したいことがあります。日露での国境問題はすぐには解決しないかと思いますが、国境地域に暮らす両国の人々が協力してきた実例が多くあります。その一つが対馬だと確信します。対馬は朝鮮半島の近くですが、1904 年から 1905 年にかけた日露戦争の舞台でもありました。対馬沖で起こったことを知らないロシア人はいないと思います。対馬沖では確かにバルチック艦隊が壊滅しました。しかし、私がここで強調したいのはそのことではなく、上対馬の住民たちが岸に漂着したロシアの兵士およそ 150 名を救出し、看護・介護し、みなを元気づけ、無事に祖国へと送り返した事実です。残念ながら、このエピソードを知る人はいま多くはありません。

上対馬・西泊には当時、亡くなった数千名のロシア人の名前を刻んだ記念碑もあり、地元の人たちは毎年、慰霊祭を行ってきました。これは地元の人たちによるイニシャティブであり、そこにはロシアと日本の国旗が掲げられます。ロシアの大使が参加したこともあります。

私の提案は次のようなものです。この対馬で日露サミットをやってはどうでしょうか。それが難しいのであれば、プーチン大統領に上対馬にお越しいただけないでしょうか。上対馬こそ日本人とロシア人の人と人の友情で結ばれた地でもあるからです。

国境問題を解決するのは難しいものです。しかし、友情を結びお互い助け合うことは必要です。上対馬の記念碑こそ、ロシアと日本が戦争の敵意を乗り越えうることを証明しており、この地は助け合いの心と真の友情を学びうる場所だと思います。ロシアと日本が一緒に未来をつくる約束の地としてこれ以上ふさわしい場所はありません。

昨年 11 月、私は国境・境界問題にかかわる国際会議を福岡と釜山で組織しましたが、40 か国から 200 名の方が参加しました。ロシアからの参加者も 10 名にのぼり、ノボシビルスク、ハバロフスク、ウラジオストク、ペテルブルグ、モスクワと様々な地域から来てくれました。フィールドワークで対馬に立ち寄ったのですが、すべてのロシア人研究者が対馬のこのエピソードに感動していました。みなが対馬市長と一緒に写真におさまりました。

上対馬に暮らす人々は、いまなおロシアの人々に深い敬意をもっており、また亡くなったロシア兵の御霊を守りつづけています。私はプーチン大統領が日本に訪れたとき、ぜひこの地を訪れていただきたいと心より願っています。

なお、この提案はあくまで私個人のものであることを申し添えておきます。.

岩下明裕

＊この手紙は2013年9月18日のバルダイ会議のレセプションでプーチン大統領に直接渡したロシア語の手紙を一部抜粋し、再構成したものです。